

仕事にも趣味にも常に高い目標を設定し、その実現に向けて一直線に努力しながら人生を切り拓いていく…。税理士事務所を経営する任尉^{ひでやす}さんは、仕事のパートナーでもある妻の文枝さんが「この人にはかなわない」と尊敬する強い意志の持ち主です。そんな任尉さんが、何ひとつ妥協することなく、夢をそのままカタチにしたのが、このスイートホーム。

男の夢、妻の想い すべてを包むスイートホーム



© 株式会社プロス

大屋根の切り妻とフラットルーフを組み合わせた大胆な外観デザイン。O様はこの景観とリビングからの視界を守るため、完成後に隣地も購入

E X T E R I O R & G A R A G E

男の夢をデザインすると フロア全体が遊びの空間になった

カーディーラーのショールームのようなビルトインガレージ。そこに並んだ車やバイクを眺めながら、ブランドのグラスを傾け、中学生の頃からずっと大好きな矢沢永吉の曲を楽しめる趣味の部屋があるといい。書斎やホームシアターはもちろん、しゃれたバーカウンターや、テレビを見ながら身体を鍛えられるトレーニングルームも欲しい。それに、サッカークのユニフォームやグッズを収納するウォークインクローゼットはこのくらいの広さが必要…。

「ご予算はどれくらいですか？」という質問に、任尉さんは「予算は考えずにプランしてください」と即答されました。

「普通はプランを検討する間にご主人の空間が狭められていくという話ですが、うちはまったく逆でどんどん大きくなっていきました（笑）」と、文枝さんが楽しそうに振り返ります。

こうして完成した新居は、ビルトインガレージを含めると延床面積100坪にもなる大邸宅。その1階は、フロア全体がまさに「男の夢」。個人の住宅とは思えない非日常な空間が有機的につながっています。

「複数の住宅メーカーからプランを出してもらいましたが、ダイワハウスのプランは要望がすべて入っていてムダな空間がまったくなく。デザインもずば抜けていました」。



© 株式会社プロス



1



- ① 黒い床にLED照明を埋め込んだビルトインガレージは、まるで空港の滑走路
- ② 車とバイクはご夫妻共通の趣味。任尉さんの愛車ハーレーダビッドソンと文枝さんのスカイウェイブ
- ③ 趣味室から眺められる2つめのガレージ



8

© 株式会社プロス





玄関ホールから続くホワイエ（のバーカウンター）。波型のパーチカルブラインドがリゾート気分を演出

仕事も趣味も妥協はしない 挫折さえ強さの糧になる

高校時代の任尉さんは、市立船橋高校のサッカー選手でした。小柄な体格ながら「1対1で相手に負けない」プレーで、全国高等学校サッカー選手権大会ベスト16。市立船橋と言えば今でこそ高校サッカー界の名門ですが、全国大会に出場したのは任尉さんたちのチームがはじめてです。子どもの頃の夢は、サッカーで食べていくこと。Jリーグが誕生する前の時代ですから、実業団チームのある企業に入社しました。

「しかし、サッカー選手としての限界を感じ、毎日お酒を飲むような生活でした」と任尉さん。「このままじゃいけない」と、働きながら夜学で簿記の勉強をはじめ、22歳の時に「3年間で税理士の資格を取る」と目標を立てました。ところが、その1年目、受験した全科目に不合格。

「こんなに勉強したのに受からないのか、と目の前が真っ白になりました。だけど、一度挫折した方が、悔しい思いがあるから、その後は強い」。

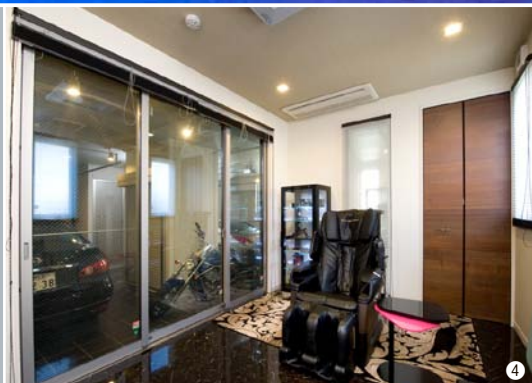
仕切り直した2年目は、受験した科目すべてに合格。3年目に税理士の資格を取得し、見事に目標を実現したのです。

41歳の現在は、5人のスタッフと多くの顧客を抱える税理士事務所の所長として、月末はいつも帰宅が午前さま、確定申告の時期には事務所に泊まり込むほどハードワークの毎日。

そんな中でも、月に2度は文枝さんと一緒に書を楽しむために東京の教室に出かけます。30代になって学びはじめた書は、師範の腕前。今も仲間と続けているサッカーでは、40歳以上のクラスで関東大会に優勝、全国大会に出場されるとか。

「彼の生き方を見ると、この人にはかなわない」と思います。仕事も趣味もすごく真摯に頑張る人。家でくつろぐ時間がたまにしかない分、この家で夢をすべて実現させてあげたいと心から思いました」と文枝さんは言います。

- ①タイル張りのテラスに池を設け、夜には水と照明が織りなす幻想的な雰囲気を楽しむ
- ②トレーニングルームにはアメリカ製のフィットネスマシンとドラムセット。留守がちな任尉さんの代わりにもっぱら公貴君が利用している
- ③1階のテーマカラーはご夫妻が好きなブルー。深海のようなブルーの照明に包まれ、ホワイエがホームシアターに一変する
- ④ご家族が“永ちゃん部屋”と呼ぶ任尉さんの趣味室。ビルトインガレージの車を眺めながら矢沢永吉の曲を聴く至福のひと時
- ⑤隣の書斎からもショールームのようなガレージが眺められる



1 s t F L O O R
H O B B Y S P A C E

“永翔”の画号を持つ任尉さんの書



© 株式会社プロス

LDKは造作家具を多用して、ほとんどの壁面を収納に利用



ファミリースペースのリビングは、木の素材感が際立つシンプルで開放的な空間



2階のオープンキッチン、収納キャビネットの外にパネルスクリーンを設け、見えない収納を徹底



サッカーのユニフォームがずらりと並ぶ任尉さん専用のウォークインクローゼット。歴年の矢沢タオルも3箱に分けてケースに収納



主寝室はベッドヘッドをブルーのガラスモザイクとダウンライトで演出

明るい空色をテーマカラーにした公貴君の部屋はロフト付き

壁の一面にブラックを採用、モノトーンでまとめた葵さんの個室



スクエアデザインで構成されたモダンな和室



2nd FLOOR & PRIVATE

スイートホームは親の夢のカタチ 子どもたちが未来を夢見る場所

ファミリースペースとなる2階のLDKは、壁面収納を含め30畳を超える大空間。

「うちは家族が揃うことがめったにないので、少しでも顔を合わせる時間がとれるように、リビングを通して個室に入る平屋のような生活空間にしたかったのです」と文枝さん。ご自身も事務所のスタッフとしてフルタイムで仕事をされ、夜9時を過ぎて帰宅することが珍しくありません。普段はもっぱら長女の葵さんが料理や庭の手入れを担当。長男の公貴君も料理が得意です。

「私が外で仕事をしているので、子どもたちには小さな頃から我慢させてきました。だからこそ、一緒にいる時はいつも笑っていられる家族でいたい。そういう意味では、突拍子もないことをしてくれる主人なので笑いが絶えません（笑）」

ある日突然、食器棚の中に矢沢グッズが入っていたり、任尉さんの趣味の小物が毎日のように増えて家族を呆れさせます。

その一方で、お子さんたちはこの両親の頑張る姿をしっかりと見ているようです。高校1年生の公貴君は、「僕も頑張って勉強して、跡を継げたいと思う」。葵さんは「私も簿記の勉強をはじめの」。

そして任尉さんは、「これからの私の目標は自社ビルを建てること」。もう次の目標に向かって走り出しているカッコイイお父さんです。



© 株式会社プロス



© 株式会社プロス

営業担当／大野 伸祐
工事担当／松元 拓也
設計担当／宮川 大介
インテリア担当／中川 田津子

プロデューサーに株式会社プロス代表・徳武 智和氏を迎え、支店スタッフと一体となって進めたOさま邸の住まいづくりプロジェクト。建築家とダイワハウスとのコラボレーションにより、「他社に抜きん出た設計提案」とOさまからも高い評価をいただきました。設計力・技術力・サポート力の三位一体で、より一層のご満足をお願いいたします（大野）。

船橋支店
住所／千葉県船橋市葛飾町2丁目406
TEL／047-435-6811